

1

解答解説のページへ

次の問いに答えよ。

- (1) 関数 $f(x) = e^{-x} \sin x$ と $g(x) = e^{-x} \cos x$ の導関数 $f'(x)$, $g'(x)$ を求めよ。
- (2) 整数 k に対し, 定積分 $\int_{k\pi}^{(k+1)\pi} e^{-x} \sin x dx$ を求めよ。
- (3) 極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^{n\pi} e^{-x} |\sin x| dx$ を求めよ。

2

解答解説のページへ

虚数単位を i とし、複素数 α を、 $\alpha = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i$ とする。また、実数 u, v に対し、複素

数 w, z を、 $w = u + vi$ 、 $z = \alpha w$ とする。次の問いに答えよ。

(1) z の実部と虚部、および $|z|$ を、それぞれ u と v を用いて表せ。

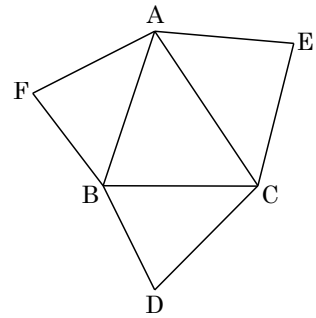
(2) $u + \sqrt{3}v - 1 = 0$ のとき、実数 s, t を $s + ti = z^2$ で定める。 $t^2 = s + \frac{1}{4}$ であることを示せ。

(3) $u + \sqrt{3}v - 1 = 0$ のとき、実数 a, b を $a + bi = w^2$ で定める。 xy 平面において、点 $P(a, b)$ と直線 $x - \sqrt{3}y + 1 = 0$ の距離は、 P と原点の距離に等しいことを示せ。

3

右の図は、ある四面体 T の展開図である。ここで、 $AB = \sqrt{10}$ 、 $AC = \sqrt{13}$ 、 $BF = \sqrt{5}$ 、 $AF = \sqrt{7}$ 、および $\overrightarrow{AD} \cdot \overrightarrow{BC} = 0$ 、 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 7$ である。このとき、三角形 ABC の面積および四面体 T の体積を求めよ。

解答解説のページへ



4

解答解説のページへ

n を自然数とする。3 辺の長さが $\sqrt{a_n}$, $\sqrt{a_{n+1}}$, $\sqrt{a_{n+1}}$ である二等辺三角形の面積が $\frac{\sqrt{3}}{4}$ となる数列 $\{a_n\}$ を考える。次の問いに答えよ。

- (1) 3 辺の長さが \sqrt{a} , \sqrt{b} , \sqrt{b} である二等辺三角形の面積を求めよ。
- (2) 漸化式 $a_{n+1} = \frac{1}{4}\left(a_n + \frac{3}{a_n}\right)$ を示せ。また、 $a_{n+1} \geq \frac{\sqrt{3}}{2}$ であることを示せ。
- (3) 等式 $a_{n+1} - 1 = \frac{a_n - 3}{4a_n}(a_n - 1)$ を示せ。
- (4) $|a_1 - 1| \leq \frac{1}{4}$ とする。このとき、すべての n について、 $|a_{n+1} - 1| \leq \frac{3}{4}|a_n - 1|$ が成り立つことを示し、 $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ を求めよ。

1

問題のページへ

$$(1) \quad f(x) = e^{-x} \sin x \text{ に対し, } f'(x) = -e^{-x} \sin x + e^{-x} \cos x = -e^{-x}(\sin x - \cos x)$$

$$g(x) = e^{-x} \cos x \text{ に対し, } g'(x) = -e^{-x} \cos x - e^{-x} \sin x = -e^{-x}(\cos x + \sin x)$$

$$(2) \quad (1) \text{ から, } f'(x) + g'(x) = -2e^{-x} \sin x \text{ となり,}$$

$$e^{-x} \sin x = -\frac{1}{2}\{f'(x) + g'(x)\} = -\frac{1}{2}\{f(x) + g(x)\}'$$

さて, $I_k = \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} e^{-x} \sin x dx$ とおくと,

$$I_k = -\frac{1}{2}[f(x) + g(x)]_{k\pi}^{(k+1)\pi} = -\frac{1}{2}[e^{-x}(\sin x + \cos x)]_{k\pi}^{(k+1)\pi}$$

ここで, $\sin k\pi = 0$, $\cos k\pi = (-1)^k$ に注意して,

$$I_k = -\frac{1}{2}\{e^{-(k+1)\pi}(-1)^{k+1} - e^{-k\pi}(-1)^k\} = -\frac{(-1)^k}{2}e^{-k\pi}\{e^{-\pi} \cdot (-1) - 1\}$$

$$= \frac{(-1)^k}{2}(e^{-\pi} + 1)e^{-k\pi}$$

$$(3) \quad J_n = \int_0^{n\pi} e^{-x} |\sin x| dx = \int_0^{n\pi} |e^{-x} \sin x| dx = \sum_{k=0}^{n-1} \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} |e^{-x} \sin x| dx \text{ とおく。}$$

ここで, $k\pi \leq x \leq (k+1)\pi$ において, $e^{-x} \sin x$ の符号は変わらないので,

$$J_n = \sum_{k=0}^{n-1} \left| \int_{k\pi}^{(k+1)\pi} e^{-x} \sin x dx \right| = \sum_{k=0}^{n-1} |I_k| = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1)e^{-k\pi}$$

$$= \frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1) \cdot \frac{1 - e^{-n\pi}}{1 - e^{-\pi}}$$

$$\text{すると, } \lim_{n \rightarrow \infty} J_n = \frac{1}{2}(e^{-\pi} + 1) \cdot \frac{1}{1 - e^{-\pi}} = \frac{1 + e^{-\pi}}{2(1 - e^{-\pi})} = \frac{e^{\pi} + 1}{2(e^{\pi} - 1)} \text{ となる。}$$

[解説]

定積分の計算についての有名問題です。(1)の計算は,(2)の原始関数を直接的に求めるための誘導とみることができます。

2

問題のページへ

$$(1) z = aw = \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i\right)(u + vi) = \left(\frac{\sqrt{3}}{2}u - \frac{1}{2}v\right) + \left(\frac{1}{2}u + \frac{\sqrt{3}}{2}v\right)i \text{ となる。}$$

これより、 z の実部は $\frac{\sqrt{3}}{2}u - \frac{1}{2}v$ 、虚部は $\frac{1}{2}u + \frac{\sqrt{3}}{2}v$ である。

また、 $|z| = |aw| = |\alpha||w| = \sqrt{\frac{3}{4} + \frac{1}{4}} \cdot \sqrt{u^2 + v^2} = \sqrt{u^2 + v^2}$ となる。

$$(2) u + \sqrt{3}v - 1 = 0 \text{ のとき、} u = -\sqrt{3}v + 1 \text{ となり、(1)から、}$$

$$z = \frac{\sqrt{3}(-\sqrt{3}v + 1) - v}{2} + \frac{-\sqrt{3}v + 1 + \sqrt{3}v}{2}i = \frac{-4v + \sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i$$

ここで、 $z^2 = s + ti$ から、

$$s + ti = \left(\frac{-4v + \sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i\right)^2 = \left(\frac{-4v + \sqrt{3}}{2}\right)^2 + \frac{-4v + \sqrt{3}}{2}i - \frac{1}{4}$$

これより、 $s = \left(\frac{-4v + \sqrt{3}}{2}\right)^2 - \frac{1}{4}$ 、 $t = \frac{-4v + \sqrt{3}}{2}$ となり、 $t^2 = s + \frac{1}{4}$ である。

$$(3) w^2 = a + bi \text{ から、} a + bi = (u + vi)^2 = (u^2 - v^2) + 2uvi \text{ となり、}$$

$$a = u^2 - v^2, \quad b = 2uv$$

さて、 xy 平面において、点 $P(a, b)$ と直線 $x - \sqrt{3}y + 1 = 0$ の距離 d は、

$$d = \frac{|a - \sqrt{3}b + 1|}{\sqrt{1 + 3}} = \frac{|(u^2 - v^2) - 2\sqrt{3}uv + 1|}{2} = \frac{|(u - \sqrt{3}v)^2 - 4v^2 + 1|}{2}$$

すると、 $u + \sqrt{3}v - 1 = 0$ ($u = -\sqrt{3}v + 1$) のとき、

$$d = \frac{|(-2\sqrt{3}v + 1)^2 - 4v^2 + 1|}{2} = \frac{|8v^2 - 4\sqrt{3}v + 2|}{2} = |4v^2 - 2\sqrt{3}v + 1|$$

さらに、 $4v^2 - 2\sqrt{3}v + 1 = 4\left(v - \frac{\sqrt{3}}{4}\right)^2 + \frac{1}{4} > 0$ から、 $d = 4v^2 - 2\sqrt{3}v + 1 \dots\dots\dots ①$

また、点 $P(a, b)$ と原点 O との距離は、

$$\begin{aligned} OP &= \sqrt{a^2 + b^2} = \sqrt{(u^2 - v^2)^2 + (2uv)^2} = \sqrt{u^4 + 2u^2v^2 + v^4} = \sqrt{(u^2 + v^2)^2} \\ &= u^2 + v^2 = (-\sqrt{3}v + 1)^2 + v^2 = 4v^2 - 2\sqrt{3}v + 1 \dots\dots\dots ② \end{aligned}$$

①②より、 $d = OP$ となり、点 $P(a, b)$ と直線 $x - \sqrt{3}y + 1 = 0$ の距離は、 P と原点の距離に等しい。

[解説]

複素数についての問題です。上の解答例は計算だけで押し通しました。ただ、(2)と(3)の関係が気になったので再考すると、放物線の定義と回転移動が絡んでいました。

3

問題のページへ

右の四面体 T の展開図において、 $AB = \sqrt{10}$ 、 $AC = \sqrt{13}$ 、 $BF = \sqrt{5}$ 、 $AF = \sqrt{7}$ である。

ここで、 $\overline{AB} \cdot \overline{AC} = 7$ より、 $\triangle ABC$ の面積 S は、

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{|\overline{AB}|^2 |\overline{AC}|^2 - (\overline{AB} \cdot \overline{AC})^2}$$

$$= \frac{1}{2} \sqrt{10 \cdot 13 - 7^2} = \frac{9}{2} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

また、 $\triangle ABC$ に余弦定理を適用すると、

$$BC^2 = 10 + 13 - 2 \cdot 7 = 9, \quad BC = 3$$

そして、 $\overline{AD} \cdot \overline{BC} = 0$ から $\overline{AD} \perp \overline{BC}$ となり、線分 AD と BC の交点を G とおくと、

$$S = \frac{1}{2} BC \cdot AG = \frac{3}{2} AG \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

①②から、 $\frac{3}{2} AG = \frac{9}{2}$ となり、 $AG = 3$ から、

$$BG = \sqrt{AB^2 - AG^2} = \sqrt{10 - 9} = 1, \quad DG = \sqrt{DB^2 - BG^2} = \sqrt{5 - 1} = 2$$

さて、四面体 T において、点 D から AG に下ろした垂線の足 H に対し $DH \perp AG$ ……③である。また、 $DG \perp BC$ かつ $AG \perp BC$ より、平面 DAG は辺 BC と垂直になるので、 $DH \perp BC$ ……④である。

すると、③④から DH は平面 ABC に垂直である。

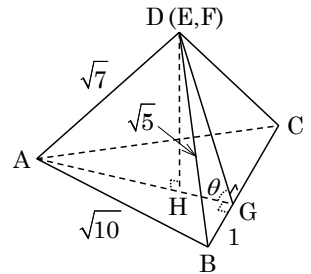
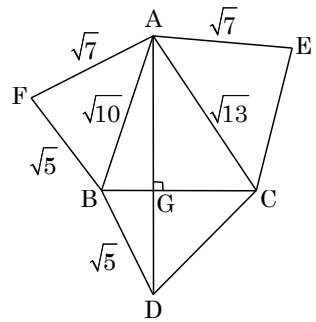
そこで、 $\angle DGA = \theta$ とおくと、余弦定理から、

$$\cos \theta = \frac{AG^2 + DG^2 - DA^2}{2AG \cdot DG} = \frac{9 + 4 - 7}{2 \cdot 3 \cdot 2} = \frac{1}{2}$$

$$DH = DG \sin \theta = 2 \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = 2 \sqrt{1 - \frac{1}{4}} = \sqrt{3}$$

したがって、四面体 T の体積 V は、

$$V = \frac{1}{3} S \cdot DH = \frac{1}{3} \cdot \frac{9}{2} \cdot \sqrt{3} = \frac{3}{2} \sqrt{3}$$



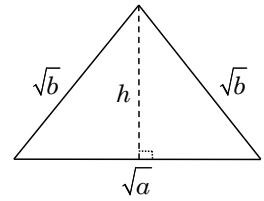
[解説]

四面体の展開図を題材にした計量問題で、2009 年に北大で似た構図の問題が出ています。なお、三垂線の定理については、手元にある教科書では省かれていましたので、その説明を加えています。

4

問題のページへ

- (1) 3 辺の長さが \sqrt{a} , \sqrt{b} , \sqrt{b} である二等辺三角形について、
右図のように高さを h とおくと、



$$h = \sqrt{(\sqrt{b})^2 - \left(\frac{\sqrt{a}}{2}\right)^2} = \sqrt{b - \frac{a}{4}} = \frac{1}{2}\sqrt{4b - a}$$

その面積は、 $\frac{1}{2}\sqrt{a}h = \frac{1}{2}\sqrt{a} \cdot \frac{1}{2}\sqrt{4b - a} = \frac{1}{4}\sqrt{a(4b - a)}$

- (2) 3 辺の長さが $\sqrt{a_n}$, $\sqrt{a_{n+1}}$, $\sqrt{a_{n+1}}$ である二等辺三角形について、その面積が $\frac{\sqrt{3}}{4}$

より、(1)の結果を利用すると、

$$\frac{1}{4}\sqrt{a_n(4a_{n+1} - a_n)} = \frac{\sqrt{3}}{4}, \quad a_n(4a_{n+1} - a_n) = 3$$

すると、 $4a_{n+1} - a_n = \frac{3}{a_n}$ から、 $a_{n+1} = \frac{1}{4}\left(a_n + \frac{3}{a_n}\right)$ ……①

また、 $a_n > 0$ から、相加平均と相乗平均の関係を用いると、①より、

$$a_{n+1} = \frac{1}{4}\left(a_n + \frac{3}{a_n}\right) \geq \frac{1}{4} \cdot 2\sqrt{a_n \cdot \frac{3}{a_n}} = \frac{\sqrt{3}}{2}$$
 ……②

- (3) ①から、 $a_{n+1} - 1 = \frac{1}{4}\left(a_n + \frac{3}{a_n}\right) - 1 = \frac{a_n^2 + 3 - 4a_n}{4a_n} = \frac{a_n - 3}{4a_n}(a_n - 1)$ ……③

- (4) ③から、 $|a_{n+1} - 1| = \left|\frac{a_n - 3}{4a_n}\right| |a_n - 1| = \frac{1}{4}\left|1 - \frac{3}{a_n}\right| |a_n - 1|$

ここで、 $f(x) = \frac{1}{4}\left|1 - \frac{3}{x}\right|$ ($x > 0$) とおくと、 $|a_{n+1} - 1| = f(a_n)|a_n - 1|$ ……④

$$f(x) = -\frac{1}{4}\left(1 - \frac{3}{x}\right) \quad (0 < x < 3), \quad f(x) = \frac{1}{4}\left(1 - \frac{3}{x}\right) \quad (x \geq 3)$$

これより、 $y = f(x)$ のグラフは、右図のようになる。

さて、 $|a_1 - 1| \leq \frac{1}{4}$ から、 $\frac{3}{4} \leq a_1 \leq \frac{5}{4}$ となり、

$$\frac{7}{20} \leq f(a_1) \leq \frac{3}{4}$$

また、 $n \geq 2$ のとき、②から $a_n \geq \frac{\sqrt{3}}{2}$ なので、

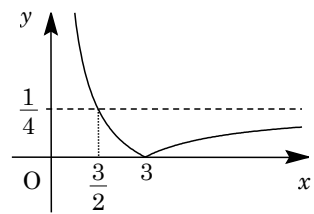
$$0 \leq f(a_n) \leq \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{1}{4} < \frac{3}{4}$$

したがって、すべての n について、 $0 \leq f(a_n) \leq \frac{3}{4}$ であるので、④から、

$$|a_{n+1} - 1| \leq \frac{3}{4}|a_n - 1|$$

すると、 $0 \leq |a_n - 1| \leq |a_1 - 1|\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} \leq \frac{1}{4}\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1}$ となり、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{4}\left(\frac{3}{4}\right)^{n-1} = 0$ から、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} |a_n - 1| = 0, \quad \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = 1$$



[解説]

漸化式と極限の問題です。よく見かけるタイプですが、(4)の詰めが煩雑なので、関数を対応させて処理をしました。